灯

落成式

草野　義輔

構想から7年を要した新校舎が完成し、2月に落成式を挙行する運びとなった。年末建物を覆っていたシートが除かれた時は、模型等で姿形は承知していても深い感動を覚えた。

昨夏に専用歩道橋が架かった後は「橋」ばかりが注目されたが、全容が現れるとファサード（正面）の形が新たな関心を呼んでいる。設計アドバイザーをお願いした高校時のクラスメート小場瀬令二君（筑波大学名誉教授）が設計事務所と深夜まで議論を重ねてくれたものだ。

彼とは卒業後長い間疎遠であったが10年ほど前再会を果たし、学校の建築を数多く手掛けてきたと聞き、ならばと校舎新築計画では施主側の設計専門家として関わっていただいた。設計コンペの審査からゼネコンの決定に至るまでの段取りなど多くのことを教えてもらったが、まさか高校卒業後50年近くたって一緒に仕事をすることになるとは、想像だにしていなかった。

通常施主側は設計事務所に任せきりになりがちだと思うが、設計のプロによる施主側視点からの発言は大いに役立ったと感じている。彼が特に強調したのは設計に時間をかけよう、ということで基本から実施設計まで約1年要した作業となった。結果ゼネコンとの契約金額と実費の差は1%以下という精度だった。落成式では万感を込めて感謝状を贈呈する予定だ。

（昭和学園高校理事長・日田市）